

山本 アグリ JOURNAL

2025年9月号



山本商事株式会社

本社：会津若松市インター西29番地

〒965-0059 TEL (0242) 24-4561 (代) FAX (0242) 25-0956

No. 305

営業所：郡山市喜久田町卸一丁目14番地1

〒963-8681 TEL (024) 959-6631 (代) FAX (024) 959-6634

今年の水稲作柄状況と今後の管理

(株)米穀データバンクが、7月31日現在の令和7年産(主食用等)の収穫予想を発表しました。福島県の作況指数は、104「やや良」と見込まれています。

全国では、作況指数 102、予想収穫量は 1.7 mm篩目ベースで 747 万トン进行予想しています。

今年は斑点米カメムシの発生密度が高かったため、着色粒の被害は多いと予想されます。検査・買入にあたっては、注意を払うことが必要です。

品質については、出穂後高温が続いているため白未熟粒の混入や、刈り遅れによる胴割粒の発生が懸念されます。早期落水を避け、適期刈取を励行して、品質低下を防ぐように農家を指導してください。

刈取後に生ワラ・もみ殻を圃場に戻して、生ワラ腐熟促進材(バイオフミンや石灰窒素など)や土壌改良資材などの施用と、秋鋤き込みを実施するように勧めてください。生ワラのガス害を軽減して、根量が増加することで、天候の変化に強い、良品質の米生産が可能となります。

秋冬期(根雪前)に畦畔や法面に、茎葉処理除草剤(ラウンドアップマックスロード、ザクサなど)を散布することで、翌春の除草を田植後まで遅らせることができます。また、ネズミの餌となる雑草を枯らすことで、巣穴がなくなり、漏水を防げます。

近年中干し後に発生したノビエが多く見られます。ノビエは、刈取後にも圃場内で再生し大量の種子をつけ、翌年のノビエ密度を高めます。翌年への持ち越し種子を減らしノビエ密度を低下させるには、刈取後にプリグロックスLの 100 倍液を10a 当り 100~150 L たっぷり散布することで、再生したノビエを枯らすとともに、種子発芽後枯殺効果によって、密度を低減することができます。

山本商事株式会社 技師 谷津 勝司

「稲刈り後が勝負！秋耕運で差がつく来年の収量・品質」

近年の異常気象の影響で、育苗段階から弱い苗ができやすくなっています。さらに、米価の低迷を背景に土づくりが十分に行われず、その結果として春先にはガスわき障害による初期生育不良が年々増えてきております。そこで、来年の作付けに向けた健全な土づくりにむけて、おすすめの資材をご紹介します。

【高温障害対策にはケイ酸資材】

出穂後 20 日間の間に平均気温が 27℃以上の日が続くと、お米の品質を下げる要因となる「白未熟粒」が増える傾向があります。対策としては飽水管理などの水管理も有効ですが、ケイ酸資材を十分に吸収させることも大切です。

実際に、ケイ酸資材を施肥した圃場では、無施肥の圃場に比べて葉面温度が 1～5℃低下するというデータが報告されています。当社でも今年、同様の調査を行ったところ、ケイ酸を施肥した区画は無施肥区に比べて葉面温度が 2～3℃低くなる結果が得られました。

ケイ酸資材は、三要素（窒素・リン酸・加里）と異なり、秋に施用しても流亡しにくい性質を持っています。そのため、秋施用でも安心して活用できます。さらに、アルカリ分を含むケイ酸資材は稲わらの分解を促し、春作業の軽減にもつながるため、一石二鳥の効果が期待できます。秋の作業時間が限られている場合でも、一部の圃場だけでも取り組んでみることをおすすめいたします。

【オススメのケイ酸資材】

「エフグリーン2号・ハイトフ特号」

ケイ酸・鉄・苦土・マンガン・石灰含有肥料。

ケイ酸だけでなく、鉄やその他微量元素をたっぷり含んでいますので、土作りに優れている肥料です。10aあたり 3 袋以上の施肥を目安に、こだわりの田んぼでは 5 袋以上の施肥をおすすめいたします。

「イネニカ」

多孔質ケイ酸カルシウム資材。当社の代表とも言えるケイ酸資材です。非常に水と馴染みやすく、作物に利用されやすい作りになっています。土壌 pH も急激にアルカリにすることなく、長期間カルシウムを補給することができます。

【ケイ酸は春先にリン加里入り肥料で散布したい方には腐熟促進剤がオススメ】

「バイオフィミン」

汚泥や有機質肥料を完熟発酵させた汚泥発酵肥料。稲わらの腐熟化を促進することにより土壌を肥沃にします。

「豊土サングリーン」

稲わら腐熟用の省力型資材。10a 当たり 1 袋（5 kg 袋）の散布で OK。